

守山まるごと活性化プラン検討委員会
第5回 学区別会議（速野学区）

日時：平成25年11月17日（日）

9：30～11：30

場所：速野会館

次 第

1. あいさつ
2. 説明
 - 本日の進め方
 - 第4回のふりかえり
3. 意見交換
 - プロジェクトの絞り込み
 - 取り組み実現の方向
 - まちづくりのテーマ
4. 今後の進め方
5. 一言感想

守山まるごと活性化プラン検討委員会（学区別会議）委員名簿

【 速野学区 】

H250922 現在

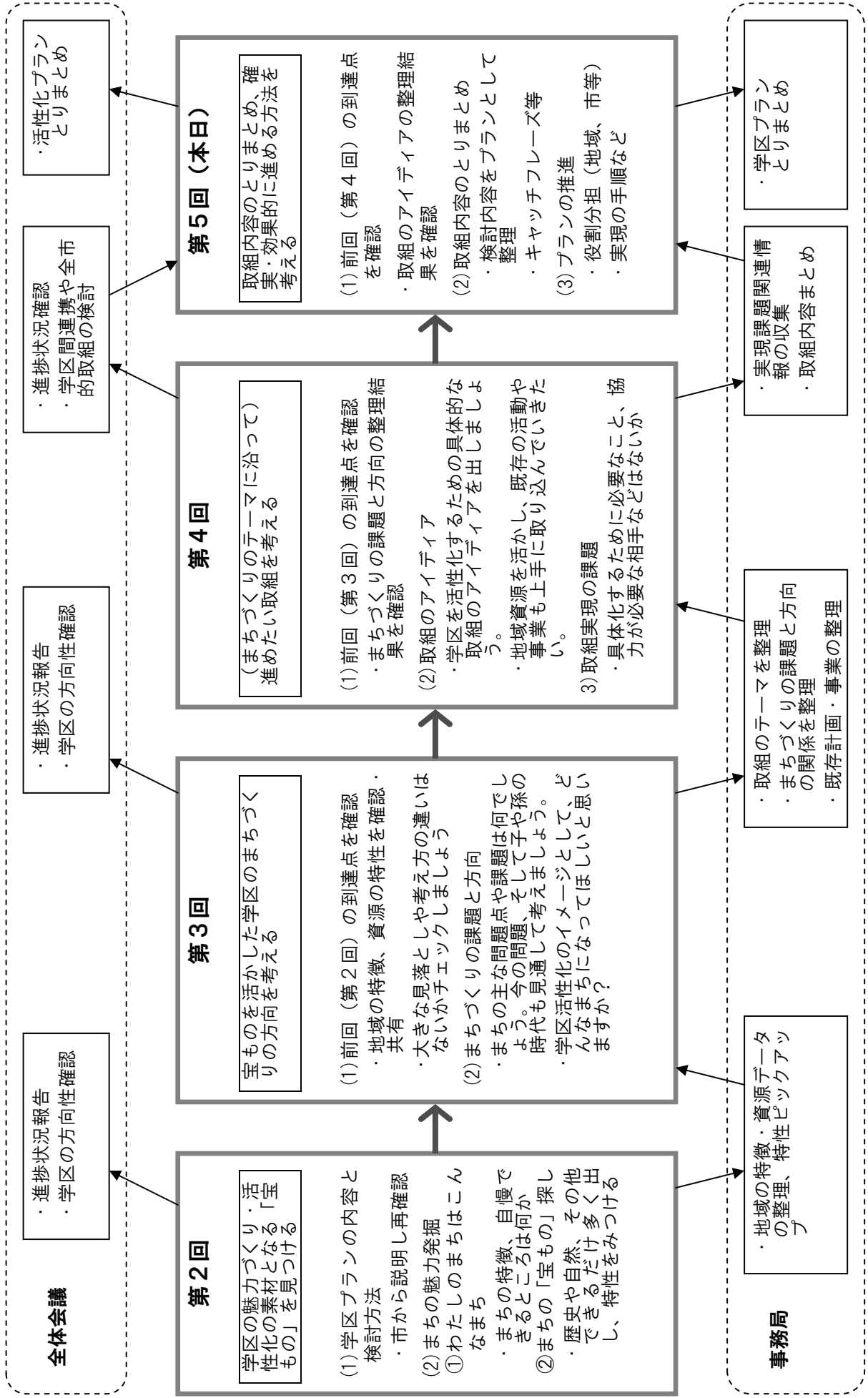
敬称略

No.	自治会	名前		性別
1	開発	芝田 八十司	しばた やそじ	男
2	開発	中井 智美	なかい ともみ	女
3	開発	岡本 善広	おかもと よしひろ	男
4	大曲	山本 光男	やまもと みつお	男
5	大曲	堀江 清	ほりえ きよし	男
6	大曲	山本 富夫	やまもと とみお	男
7	木浜	下村 清明	しもむら さやか	男
8	木浜	葭本 正昭	よしもと まさあき	男
9	木浜	下村 清武	しもむら きよたけ	男
10	木浜	中西 理津子	なかにし りつこ	女
11	社・ベラヴィータ守山	山岡 龍二	やまおか りゅうじ	男
12	社・ベラヴィータ守山	宮川 美紀子	みやがわ みきこ	女
13	社・ベラヴィータ守山	森神 亨	もりがみ とおる	男
14	美崎	山田 美鶴	やまだ みつる	女
15	美崎	苗村 寛	なむら ひろし	男
16	美崎	戸田 直弘	とだ なおひろ	男
17	美崎	伊藤 潔	いとう きよし	男
18	北川ニュータウン	岸 典生	きし つねたか	男
19	北川ニュータウン	堀尾 菊宏	ほりお きくひろ	男
20	北川ニュータウン	松本 理絵	まつもと りえ	女
21	今浜	今江 光夫	いまえ みつお	男
22	今浜	山田 良彦	やまだ よしひこ	男
23	今浜	野口 清英	のぐち きよえい	男
24	水保	今井 薫	いまい かおる	男
25	水保	西村 雅行	にしむら まさゆき	男
26	水保	小山 安男	こやま やすお	男
27	中野	中島 幸一	なかじま ゆきかず	男
28	中野	今井 孝雄	いまい たかお	男
29	中野	今井 満	いまい みつる	男
30	中野小林	佐々木 芳郎	ささき よしろう	男
31	中野小林	下川 博司	しもかわ ひろし	男
32	中野小林	赤尾 信廣	あかお のぶひろ	男

事務局

- ・濱崎一志（アドバイザー：滋賀県立大学 人間文化学部教授）
- ・高谷 実
- ・坪内稔夫
- ・小野田 敦
- ・今井 剛
- ・吉原史雄
- ・奥村彰彦
- ・西藤安彦
- ・田淵誠一

学区別会議の進め方



守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 4 回 学区別会議 [速野学区]

平成 25 年 9 月 22 日（日）午後 1 時から速野会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 4 回学区別会議を開催しました。

速野学区にお住まいの住民 22 名で、まず前回会議で出された学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について、大きな見落としがないかなどふりかえりました。次に、学区のまちづくりの具体的取り組みについて話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：副学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 3 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回のふりかえり』、
『学区のまちづくりの取り組みを考える』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



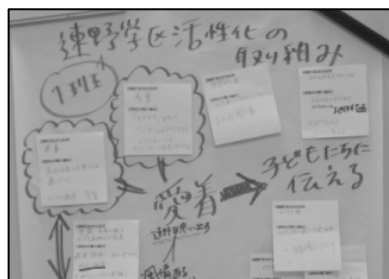
▲テーブル毎に話し合いました

テーブル毎に速野学区の『まちづくりの具体的取り組み』について話し合いました

- 4つのテーブルに分かれ、前回会議で出された速野学区のまちづくりの課題や方向性の確認を行い、さらにそれらを踏まえて、『まちづくりに向けた具体的取組みアイデア』の意見を出し合いました。
- まちづくりの課題および方向性に対しては、概ね同意が得られましたが様々な補足意見が出され、その中でも、速野学区は様々なことに他学区に先駆けて取り組んできた歴史があり、学区の将来ビジョンを継続的に議論する組織づくりの必要性、また新旧の住民で共有できる課題こそが重要という意見が強調されました。
- 『まちづくりの具体的なアイデア』としては、「地球市民の森・旧野洲川河川敷」および「琵琶湖、木浜内湖、法竜川等の水辺の環境」を活用した取り組みがどのテーブルにおいてもあげられましたが、個々にみると、設整備やイベント開催などをおして他の地域から人を呼び込むことで活性化を図ろうとするものと、地域住民が参加し協働・交流できる機会を増やすことで活性化を図ろうとするものがありました。
- このほか、「祭事や寺社仏閣などの歴史資源」「農業・漁業などの地場産業と産品」「琵琶湖大橋、湖岸道路」などを活用する様々なアイデアが出されました。



▲意見はファシリテータが記録します



▲類似の意見をグルーピングします



▲成果を発表し参加者で共有化しました

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

TEL : 074-582-1162 e-mail : miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化計画 学区別会議実施記録 第4回

1. 実施概要

学区・回	速野学区 第4回
日時	2013年9月22日(日) 13:00~15:00
会場	速野会館
参加者	住民22人(開発3人、大曲3人、木浜3人、材・ベラヴィータ守山1人、美崎4人、北川ニュータウン0人、今浜2人、水保2人、中野2人、中野小林2人) 濱崎先生 守山市(高谷、今井、西藤、坪内、吉原) 地域未来研究所(田淵、小野田、奥村)
会場設営	4テーブルを配置。くじでテーブルを指定して着席
実施経過	<p>1. 挨拶</p> <p>①開会挨拶(坪内課長補佐)</p> <p>②開会挨拶(副学区長)</p> <p>2. 説明</p> <p>①本日のプログラム内容(田淵)</p> <p>②第3回検討結果の説明(田淵)</p> <p>3. 意見交換(テーブル別ワーク)</p> <p>①前回のふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議結果(課題・活性化の方向性)を整理した資料を見ながら、速野学区の課題および活性化の方向性について、各テーブルにて再検討を行った。 ・再検討結果の概要は、各テーブルのファシリテータより報告された。 ・課題および方向性に対しては概ね同意が得られ、誤りの指摘や見直しに関する意見は僅かであったが、個々の課題および方向性については、補足意見が出された。 ・「増えている人口～新旧の自治会で格差が拡大～」 <ul style="list-style-type: none"> …新自治会での子どもの増加を地域行事や祭事の継続につなげる、同世代内交流に対し世代間交流が少ない等の意見。「格差」という表現は不適切という指摘。 ・「学区・自治会運営上の諸問題～規模の大きさ・新旧混在などに起因～」 <ul style="list-style-type: none"> …先駆者的リーダーの継承が重要、地域連携意識の高揚が必要、地場産業に携わる人がキーパーソン、学区の組織内に将来ビジョンを語る場が必要等の意見。 ・「都市構造・公共施設～13,000人の学区に相応しい施設を～」 <ul style="list-style-type: none"> …取り残されている施設・慣習を将来どうするかを検討が必要という意見。 ・「地域への愛着～愛郷心、誇りを醸成するものが少ない～」

- …中年層の参加できる場、学区全体で楽しみを共有できる場が必要という意見。
- ・「世代間の交流を促し、速野ならではの多様性という特徴を活かしたまちづくり」
…速野にはあらゆる面で他学区に先駆けた取り組みを行ってきた歴史があり、今後も先駆的活動を支える組織づくりと議論の場が必要という意見。
- ・旧住民が守ってきた伝統と新住民の新しいセンスの交流が必要。新旧の住民が共有できる課題が重要課題であるという意見。
- ・子どもの健全育成、北部市街化地域活性化のあり方の議論が重要という意見。

②学区のまちづくりの取り組みを考える

- ・各テーブルにおいて、速野学区のまちづくりの具体的な取り組みのアイデアについて自由に意見を出しあった。
- ・課題のカードは各テーブルのファシリテータが模造紙に貼り、グルーピングして概略の特徴を整理した。

4. 結果の発表・共有

- ・テーブル毎に参加者の代表が、速野学区におけるまちづくりの取り組みアイデアについて、検討結果を発表した。
- ・「地球市民の森・旧野洲川河川敷」および「琵琶湖、木浜内湖、法竜川等の水辺の環境」を活用した取り組みは、どのテーブルにおいてもあげられていた。
- ・「地球市民の森」の活用については、空間を活かした施設整備やイベント開催に関する様々なアイデアが出されたが、これらは他地域から人を呼び込むことで活性化を図ろうとするものと、地域住民が参加し協働・交流できる機会を増やすことで活性化を図ろうとするものに概ね大別することができた。
- ・それ以外では、「祭事や寺社仏閣などの歴史資源」「農業・漁業などの地場産業と産品」「琵琶湖大橋、湖岸道路」などを活用する様々なアイデアが出された。

5. その他

- ・次回会議の開催日時は、10月上旬に開催される自治会長会議にて決定する。

第4回速野学区会議の様子



2. 第4回学区会議の意見まとめ

まちづくりへの取組のおもなアイデアをまとめた。

<速野学区のまちづくりのアイデア>

■地球市民の森、旧野洲川を活用

- ① 学区内外の人々が集まる場として、河川敷を利用したサイクリングロード、遊歩道、桜並木などを整備する。グランドゴルフの名門コースの開設、ソーラン、音楽祭、マラソン等のイベント開催。
- ② 学区住民の活動や憩いの場として、学区内の世代交流イベントを開催できる空間を整備するとともに、雑草の手入れなどを通して学区住民の日常的な協働、交流の機会を創出する。

■木浜内湖、琵琶湖、法竜川、大川などの水辺の環境を活用する

- ③ これらの水辺環境を、散策できる回遊路やボートが通行できる水路でつないで、水と自然のネットワークを形成する。

■眺望、景観、自然環境（水辺以外）、公園等を活用

- ④ 公園の安全性向上、年中花が咲く公園への転換、ゆったりした駐車場の整備など、既存の公園や眺望をゆっくり楽しめる場所にする。
- ⑤ 自然や眺望のすぐれた一帯をオープンミュージアム（自然博物館）として、幅広い学習や交流の場とする。

■祭事、伝統行事を活用

- ⑥ 古くからの祭りの実施方法を可能な範囲で見直したり、各自治会の既存の祭事の相互連携により、神輿の担ぎ手など多くの人が祭りに参加できるようにする。
- ⑦ お満さん伝説にちなんだ、たらい舟漕ぎイベントなどを開催する。

■既存の社会基盤（インフラ）の活用

- ⑧ 幹線道路の結節点であることを活かし、守山市の北の玄関としての整備、また近江地域全体の情報発信基地として整備する。

■地場産業の活用、活性化

- ⑨ 地域産品のブランド化を進めるとともに、付加価値のある商品（メロンでつくるケーキなど）の開発と、それを食する場をつくる。

■安心・安全に暮らせるまちづくり

- ⑩ 小さなバスを走らせ公共交通の利便性向上、道路拡幅による安全性の向上。

■人の活動の場づくり

- ⑪ 「おうみんち」のような地域産品の生産者が集う場づくり。
- ⑫ 地区計画を活用し、人が住めるようなルールづくり。

■組織の活性化

- ⑬ まちづくり組織を再構築し、まるごと活性化の取り組みを次年度以降も学区で継続する。
- ⑭ 女性役員が選出されやすいしくみづくり、子どもと親の育成支援のしくみづくり。

2.1 学区のまちづくりの取り組みアイデア

取り組みの分類	活かすたからのもの	活性化の取り組み
地球市民の森、旧野洲川を活用	地球市民の森・旧野洲川	<p>公園施設の拡充</p> <p>サイクリングロードの整備</p> <p>ジョギングコース</p> <p>地球市民の森と琵琶湖をつなぐサイクリングロードや遊歩道の整備（県道今浜水保線の桜並木）</p> <p>グラウンドとしての整備（サッカー、野球、グラウンドゴルフなど）</p> <p>美崎公園～なぎさ公園～大川の水辺をつなぐ遊歩道、サイクリングロードの整備</p> <p>旧野洲川の連続した地形を活かし、桜を植樹し、日本一長い桜並木をつくりイベントを開催</p> <p>カヌー・ボートの利用を可能にする</p> <p>芝生広場を活かし、グラウンドゴルフの名門コースを開設し、毎年国際的な大会を開催</p> <p>春と秋に世代間交流のイベントを開催（既存のイベントを拡大）</p> <p>年間をととした外向けのイベントの開催。グラウンドゴルフ（既にある）、ソーラン、トライアスロン等</p> <p>ウォークラリーの開催</p> <p>音楽祭やマラソンなどのイベント</p> <p>地域住民の日常的な利用を目的とした運動公園やイベント会場づくり</p> <p>学区民の集い、交流の場として活用</p> <p>地域住民が関わることでできるエリアの設定（参加、体験型）</p> <p>雑草の手入れ、管理をおとした協働の場</p> <p>旧野洲川の環境保全等をおして、市、学区、自治会のそれぞれがそれぞれがつかうながら何かをつくる</p> <p>流水の確保と親水景観の想像</p> <p>水質の向上と清掃の徹底</p>

取り組みの分類

活かすたからのもの

活性化の取り組み

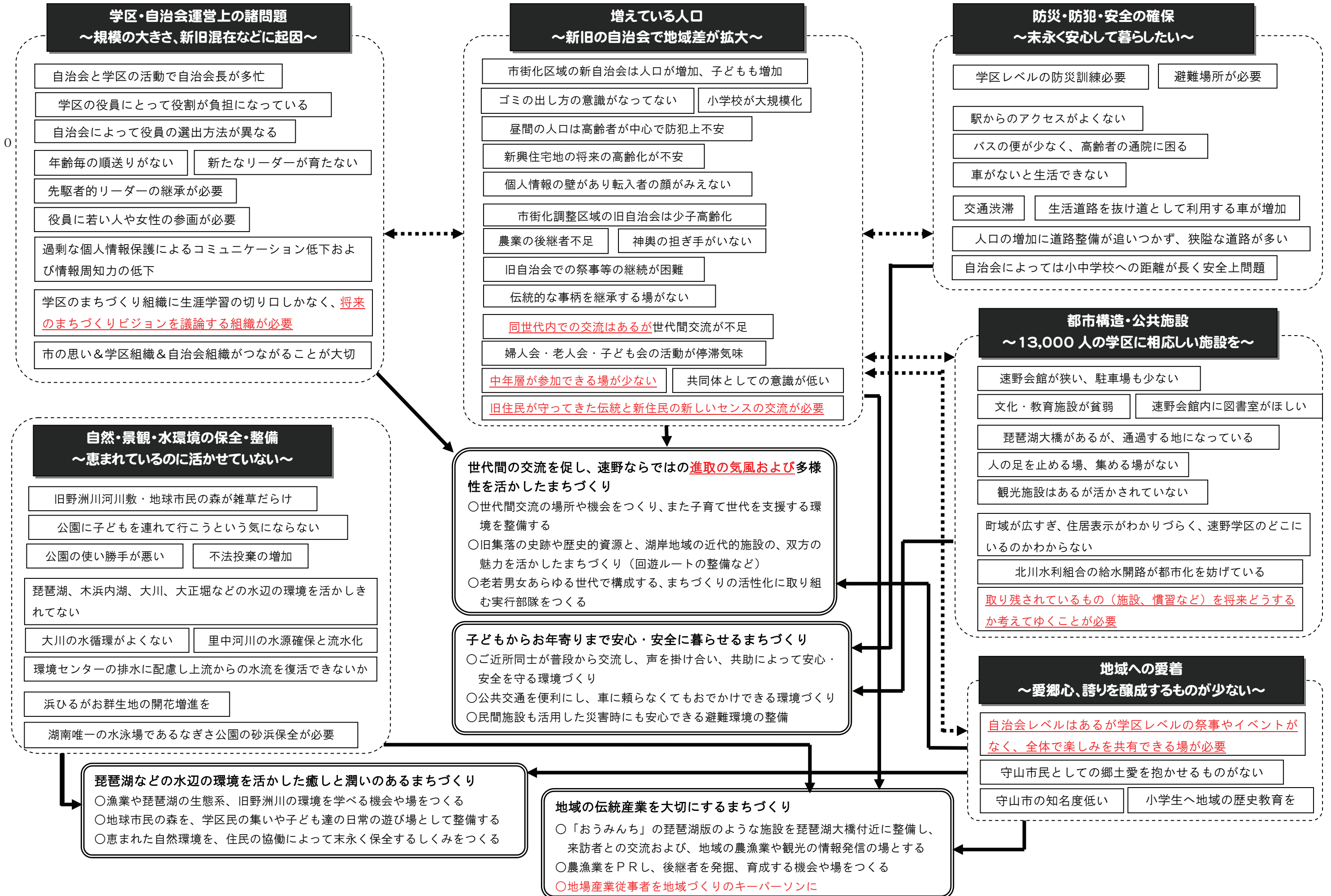
木浜内湖、琵琶湖、法竜川、大川などの水辺の環境を活用	法竜川とその下流域（木浜内湖、琵琶湖）	法竜川の水が里中の河川に流れるように遊歩道づくりと、その途中の立ち寄れる場所を整備（なぎさ公園、旧木浜港の跡、今浜コスモス園他いろいろ）
	木浜内湖～琵琶湖	カヌーの遊び場として開放
	木浜内湖	屋形船を湖周道路沿い～美崎公園付近まで運航。船から桜を眺める
		水辺の回遊マップづくり
		巡回船・ボート等を活用した取り組み（観光化よりむしろ市民が気軽に来られるように）
		手製いかた等による川下りイベント
		魚釣り、魚とり体験イベント
		野鳥観察会
		地球市民の森を軸に、大川、なぎさ公園、水泳場、漁港、大正池などをネットワーク化
		水辺の空間の活用に向けた組織をつくる
眺望、景観、自然環境（水辺以外）、公園等を活用	第一なぎさ公園	葎原の活用
		年中花が咲く公園づくり
		駐車場の整備
		年間をとおして安全な遊び場として整備
	琵琶湖とその眺望	ゆったりした駐車スペースを備えた場所を整備し、単なる通過地点からの脱却を図る
		きれいな遊歩道の整備とライトアップ
		湖岸の整備による観光事業の育成
	なぎさ公園	環境学習の機会を増やす、キャンプ等
	琵琶湖とその周辺の自然	オープンミュージアム（自然博物館）として、幅広い学習や交流に活用
	近隣景観形成協定地区（花のあるまち）	樹木ばかりでなく、大規模な花園をつくり、人が集まる公園にする（果実のなる木もよい）

取り組みの分類	活かすたからのもの	活性化の取り組み
祭事、伝統行事を活用	お祭り	祭りの実施方法を改善し、互いに呼びかけて担ぎ手を集める

歴史資源を活用	神輿の担ぎ手のいない自治会が集まり、「神輿祭り」を行う
	各自治会のお祭りの連携を図る（テーマを設定するなど）
	観光客が神輿担ぎ体験できるツアー
	お満さんの言い伝えにちなみ、男性が対岸までたらい舟を漕いでわたるイベントを開催
	各家庭に眠っている水上交通時代の写真を集め、琵琶湖畔に郷土史を学べる休憩施設をつくる
	郷土に対する理解と愛着を育てる
	学区のたからものMAPを自分たちでつくる
	地元の人々によるボランティアガイド、語り部の育成
	たからものに案内板を設置（すっきりして統一感のあるもの）
	「四季の速野めぐり」と題したルートの設定
既存の社会基盤（インフラ）の活用	地域の歴史を整理し（マップ、パンフ等）、それらと景観等をあわせて散策できるようにする
	学区内の多彩な資源をPRする
	北の玄関にふさわしい施設整備
	交通結節点にある利点を活かし、近江盆地の様々な産物や地域情報を集め、発信する場をつくる
	道の駅の開設し、地場産品等を扱うとともに、地域の住民が親子で利用できる図書館を併設
	集客施設としての機能向上を図る
	「モリヤマ」「ハヤノ」のブランド化
	旅行者者とタイアップしたツアーの企画
	メロンの販売だけでなく、付加価値のある商品（ケーキなど）の開発とそれを食する場をつくる
	オープンミュージアム（自然博物館）として、幅広い学習や交流に活用
地場産業の活用、活性化	道の駅の開設し、地場産品等を扱うとともに、地域の住民が親子で利用できる図書館を併設
	フルーツランド、モリヤマメロンなどの地場産品
	お満さん伝説
	水上交通時代の遺跡
	学区内の様々な神社・仏閣・史跡、湖岸の草花、農産品など
	神社仏閣、公園、美術館、ネオベラからの景観・眺望など
	琵琶湖大橋、取付道路、湖周道路の沿線
	ラフォーレ等の大型集客施設
	ピエリ（の敷地）
	産業
取り組みの分類	地域に根ざした産業・産品
	モリヤマメロン
	産業（農業、漁業）、美崎公園など
	フルーツランド、モリヤマメロンなどの地場産品
	活かすたからもの
	路線バス
	学区内の道路
	活性化の取り組み
	小さなバスを走らせ、公共交通を便利に
	拡幅により交互通行の可能な道路に

人の活動の場づくり	集客施設	地球市民の森の整備とともに、「おうみんち」のような地域産品の生産者が集う場
	市街化調整区域内の土地	地区計画を活用し、人が住めるようなルールづくり
組織の活性化	自治会組織	女性役員が選出されやすい仕組みを各自治会でつくる
	人（子どもと親）	子どもと親の育成と支援組織をつくる
	学区の既存のまちづくり組織	まるごと活性化の取り組みを次年度以降も学区内で継続する 既存のまちづくり組織の再構築
	(なし)	定期的な防災訓練の実施による意識の高揚

速野学区の課題・活性化の方向性



(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第4回会議での追加・修正意見

守山まるごと活性化プラン（速野学区）の取組内容について

1. 速野学区の将来像のテーマ（案） → 1案に絞る

- 案1：伝統への誇りと進取の精神が息づき、あらゆる世代がいきいきと暮らすまち
- 案2：水と自然と歴史に育まれ、“遊”“学”“憩”“食”が調和した暮らしやすさNo.1のまち
- 案3：豊かな水と自然と人がふれあい共生する、速野まるごと“エコ・ミュージアム”
- 案4：人、モノ、情報の交流が活力を生みだし、独自の文化でもてなす守山の北の玄関

2. 速野学区の住民主体のまちづくりプロジェクト（案）

■プロジェクト1 びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト

速野学区内の広範囲に広がる旧野洲川跡地において滋賀県が整備を進めているびわこ地球市民の森を、学区の住民が日常の楽しみややすらぎを享受し、住民間相互の交流を図る場として活用するとともに、学区外からの集客を目的としたイベント開催する場としても活用し、地域の内外からにぎわいや活力を生み出します。

●取組1 学区住民の日常的な楽しみと安らぎの場づくり

- 美崎公園、なぎさ公園まで連続する遊歩道、ジョギングコース、サイクリングロードの整備
- 堤防沿いに桜並木の整備
- 流水の確保、水質の向上、親水景観の整備、清掃の徹底によるやすらぎ環境の整備

●取組2 学区住民の相互交流の場づくり

- 球技を楽しめるグラウンドの整備（ソフトボール、サッカーなど）
- 学区民の集い、学区民スポーツ大会など、学区内交流、世代間交流を目的とした定例行事を地球市民の森で開催
- 雑草の手入れや管理等の環境保全に学区住民が参画するしくみをつくり、協働の機会を創出

●取組3 他地域からの来訪者を呼び込むイベント開催

- 年間を通しての集客イベントの開催（ソーラン、マラソン大会、ウォークラリー大会、音楽祭など）
- グランドゴルフコースを、国際的な大会を開催できるような名門コースとして整備

■プロジェクト2 まちなかに水のうるおい復活プロジェクト

かつての野洲川伏流水のような水を集落内に流し、うるおいとやすらぎを創出します。そし

て、水を中心に成り立っていた当時の地域文化・生活遺産・自然環境などを可能な範囲で復元、再現、保全し、地域の子どもたちや新住民に伝えてゆくとともに、水に親しむことのできる環境を整備し、教育・観光資源として活用します。

●取組1 水にまつわる文化・生活遺産の再現と保全

- 水源を確保し旧集落を流れる水の復元（伏流水、法竜川からの導入など）
- 用水路、井戸、川端など、水と日常生活が触れあう生活環境の復元
- ホテルが生息できるような水辺の自然環境の整備と保全
- 竹管簡易水道や、法竜川の舟（農作業における移動や輸送）などの生活遺産、水上交通があった時代の写真等を展示する場の整備

●取組2 水に親しみ楽しむ機会づくり

- 法竜川で舟遊びできる環境の整備（ボート、カヌー、屋形船など）
- 旧集落内の用水路や法竜川などに沿った水辺の歩行回遊ルートの整備（回遊マップや案内・説明看板の設置など）

●取組3 水をとおした住民相互や来訪者との交流機会づくり

- 用水の清掃、親水景観の保全、水質浄化などの水辺の環境保全を地域住民が主体となって行うしくみづくり
- 旧来からの住民が、地域の子どもたちや新住民や来訪者に、伏流水があった時代の生活様式や生活遺産を語り伝える

■プロジェクト3 大川周辺の自然環境保全&環境学習推進プロジェクト

旧野洲川の下流部に位置し、多くの人や車が行き来する湖周道路に近い大川と周辺の自然環境を活かし、琵琶湖（おもに琵琶湖大橋以北）や既存の公園施設（美崎公園、なぎさ公園など）と連携し、学区住民や来訪者にやすらぎとうるおいを与える空間を創出するとともに、環境学習の場として活用します。

●取組1 大川の水質改善と周辺の自然環境改善

- 水草の除去やへドロの清掃等により水質を改善し、人が触れることができ、多様な生物が生息できるきれいな水の復活
- 川岸に繁茂する雑草の除去や不法投棄物等の撤去により、悪臭などのない快適な沿岸環境の整備

●取組2 大川と周辺の自然を利用した環境学習プログラムの作成

- 大川とその周辺に生息する淡水生物、野鳥、昆虫、植物を活用した環境学習の場の整備、環境マップの作成、回遊歩道や木道の整備など
- 美崎公園のキャンプ場利用と環境学習をセットにしたプログラムづくり

●取組3 大川と周辺の花のネットワーク形成

- ハマヒルガオ、ひまわり、菜の花、コスモス、その他の希少な草花など、

大川から琵琶湖にかけて咲く草花を紹介するマップの作成
→花畑の手入れや周辺の清掃、草刈りなど、地域の住民による保全活動

■プロジェクト4 木浜内湖周辺で水に親しみ楽しむ環境整備プロジェクト

木浜内湖周辺の自然環境を活かし、琵琶湖（おもに琵琶湖大橋以南）や周辺の施設（美崎公園、なぎさ公園など）と連携し、学区住民や来訪者にやすらぎとうるおいを与える空間を創出するとともに、水に親しむスポーツや遊びの場として活用します。

●取組1 木浜内湖の水質改善と周辺の自然環境改善

→水草の除去やヘドロの清掃等により水質を改善し、人が触れることができ、多様な生物が生息できるきれいな水の復活
→川岸に繁茂する雑草の除去や不法投棄物等の撤去により、悪臭などのない快適な沿岸環境の整備

●取組2 水に親しむスポーツや遊びのプログラム作成

→ボート、カヌー、いかだ、魚釣りなど様々な水上スポーツや水に親しむ遊びを同時に楽しめるようにする
→木浜内湖～琵琶湖にかけて屋形船を運行し、水上から沿岸や比叡の山々の景観を楽しめるようにする

●取組3 水辺の環境と近代施設が融合した複合的リゾート環境の整備

→湖岸の穏やかな自然環境と、佐川美術館やゴルフ場などの近代的施設の双方を楽しめる複合的リゾート地としての魅力をPR

■プロジェクト5 速野まるごとエコミュージアムプロジェクト

広大な面積の速野学区には、旧野洲川（地球市民の森）、琵琶湖、木浜内湖、大川、法竜川、旧集落や農地の間の用水路、公園など、それぞれ個性的な水環境、自然資源が存在しており、これらをネットワーク化して速野学区全体をエコミュージアムとして形成し、水と自然と人が共生するまちをめざします。

●取組1 速野エコミュージアムマップ・パンフレットの作成

→速野に点在する様々な河川、湖、水辺空間、自然資源の位置と特徴を示したエコミュージアムマップおよびパンフレットを作成

●取組2 速野エコミュージアム回遊ルートの形成

→広大な速野学区に広がる水辺空間を回遊できる遊歩道、サイクリングロードの整備、「四季の速野巡り」と題したルートの設定、統一感のある案内標識や説明看板の整備

●取組3 環境学習を指導、実践する地域の組織、人材づくり

→それぞれの河川、湖、公園などに環境学習を指導するインストラクタを配

し、その人材を学区内の各資源のある自治会から発掘、育成
→地域の子どもたちの中から「エコレンジャー」を結成し、地域の高齢者と
いっしょに清掃や草刈りなどの保全活動に取り組む

■プロジェクト6 いにしへの文化を見つめなおし守ろうプロジェクト

学区内には多くの神社仏閣、史跡、言い伝えなど、地域の歴史を語るたからものが数多くあります。これらを学区住民の手によって再発見・再整理し、魅力や歴史的価値を学区内外の人によりよく知ってもらうとともに、住民が誇りをもって、歴史・伝統・文化を次代に継承するしくみをつくります。

●取組1 歴史的たからものの再発見&PR

→地域に点在する神社仏閣、史跡が持つ個々の歴史などに関する情報を住民が手分けして収集・整理
→その結果をまとめた歴史回遊マップ・パンフレットの作成、統一感のある案内標識や説明看板の設置
→これらを活用した速野の歴史探訪プログラムを作成、

●取組2 歴史の語り部の発掘と活躍の場の創出

→お年寄りや地元の研究者が速野の歴史の語り部（歴史ガイド）となり、地域の行事や学校教育など活躍できる機会を設定
→地区外からの来訪者に対する語り部の案内・紹介窓口の設置

●取組3 地域の子どもたちへの歴史教育

→地域の子どもたちの中が楽しみながら地元の歴史を学べるスタンプラリーやウォークラリー等の開催

■プロジェクト7 地域みんなで集い盛り上がりようプロジェクト

速野学区の各自治会が連携し、古くから伝わる祭りの復興やびわこ地球市民の森での交流イベント開催などを通して、新旧の学区民の交流、世代間交流を推進し、活性化をめざします。

●取組1 受け継がれてきた伝統の祭りを時代にあわせたかたちで継続

→古くからの祭りの精神を伝承しつつ、昔からの実施方法にとらわれず、隣接地区の人や旅行者から神輿の担ぎ手などを募る
→神輿の担ぎ手のいない自治会が集まり「神輿祭り」を開催
→各自治会のお祭りの連携を図る（テーマを設定するなど）

●取組2 新旧の学区民が一同に会する魅力あるイベントの開催

→びわこ地球市民の森のスペースなどを活用し、学区民の集いや文化祭などの定例行事の規模拡大や、各種スポーツ大会など、様々な世代が一同に会することのできる新たな定例行事を開催する
→速野に伝わるお満さんの伝説にちなみ、男性を対象としたたらい舟による競争イベントを開催する

●取組3 速野の祭りやイベントを対外的にPR

- 伝統的な祭りを学区外にPRし、特に若者に向けて、祭りでの神輿担ぎへの参加がかっこよく魅力あることを伝え、担い手の確保につなげる
- 菜まき盆、ずいき祭り、たらい神輿など、速野学区独特の伝統的祭事をPRし、学区外からの来訪者を増やす

■プロジェクト8 速野の「うまいもん」を広めようプロジェクト

モリヤマメロンをはじめとする地元の農産物や、川や湖の淡水魚など、速野でとれる食材の魅力を学区内外の人々に広め、地域の第1次産業を活性化するため、地産地消を基本として新鮮・安全・作り手の顔の見える安心食材の普及を推進します。また地域に古くから伝わる食文化の継承と普及を推進します。

●取組1 湖魚・川魚の地産地消の促進

- モロコ・鮒・ブラックバスなどの湖魚、川魚の新たなメニュー開発
- 湖魚、川魚の釣り体験とセットになったその場で魚を食べられる場の設置
- 湖魚、川魚料理のコンテストやグルメイベントの開催

●取組2 地元農産物の地産地消の促進

- 地元でとれた野菜の料理教室、品評会の開催、グルメイベントの開催
- モリヤマメロンの販売だけでなく、メロンを使った商品(ケーキ、ゼリー、ジュースなど)の開発と、それを地元で味わえる喫茶、レストランの設置

●取組3 昔からの食文化の継承

- 鮒寿司、鯉料理、小魚のあめだき、正月のぜんざいなど、地域に古くから伝わる食材や調理法をお年寄りから学んだり、食する体験の場をつくる

■プロジェクト9 守山の北の玄関おもてなしプロジェクト

琵琶湖大橋、湖周道路、取付道路が交差する湖東地域の重要な交通結節点という地の利を活かし、守山市の北の玄関口として、また県内の様々な情報や物品そして人が集まる拠点として、行き交う車や人々が足を止めてくれるような魅力を創生します。

●取組1 幹線道路沿いに情報発信拠点(道の駅など)を整備

- 遊休地や既存の空き物件を活用して道の駅を設置し、地域の農産品や水産物の販売や食事の提供
- 「おうみんち」のように、地元の農産品の生産者が集える場の設置
- 「近江の中心」として、守山市、速野学区だけでなく、近江全体の特産品や地域情報を集めて販売、発信する

●取組2 速野の住民が守山市を代表する情報発信の担い手に

- 情報発信拠点において、速野の住民が守山市の情報発信の担い手として、地域の歴史や産業や観光資源(自然、景観、歴史資源など)をPRする。特

に速野の隠れた名所などや穴場を紹介する

■プロジェクト10 安心・安全にらせるまちプロジェクト

子育て世代の若い家族やお年寄りが末永く安心して暮らせる地域をめざすため、住民同士の助け合いや見守り、高齢者の活動の場づくり、子育て支援活動など、住民同士の温もりのある互助活動を進めるとともに、日常生活の空間における安全性の確保、安心して外出できる環境を整備します。

●取組1 高齢者の活動・活躍の場づくり

- 高齢者を中心に住民が気軽に集える空間の整備（サロンなど）
- 地域の歴史案内や観光ガイドなど、速野に長く暮らす高齢者が活躍できる機会づくり

●取組2 地域の安全・安心創出活動

- 地域の安全・安心の創出に向け、自治会・婦人会・老人会といった地域組織と行政、警察、消防等との関係団体との連携・協力体制の充実など

●取組3 子どもも高齢者も安心して外出できる環境づくり

- 子どもの通学、通園路やお年寄りの散歩道などで「危ない」と感じる地点を、子どもから高齢者まであらゆる世代が集まって抽出し、「ヒヤリハットマップ」をつくる
- 車を自分で運転できない（あるいは免許を返納した）高齢者が気軽に外出できるよう、路線バスの通れない街路に小型のバスを走らせる

■プロジェクト11 みんなで考えよう速野の未来プロジェクト

人口減少と高齢化が深刻な旧集落と人が増え続ける新集落の住民意識の差、世代間交流の希薄化、水環境や自然の保全、防犯・防災・安全確保など、速野学区の様々な課題を老若男女あらゆる学区民が共有し、5年後、10年後、さらに長期的将来の速野のまちづくりビジョンを学区民みんなで考える基盤をつくります。

●取組1 まちづくり組織の見直しと次代のリーダー育成

- 生涯学習等に特化しつつある既存のまちづくり組織の状況を、あらゆる年齢層の人が参加し将来ビジョンを議論できる組織に再編
- 次代を担う若手の学区民の中から、将来のまちづくりを進める上でのリーダーとなる人材を発掘し育ててゆくためのしくみづくり

●取組2 進取の気風を継承しつつみんなで考える将来ビジョン

- 速野の伝統である他学区に先駆けた様々な先進的取り組み、進取の気風を継承するため、学区や自治会組織の古い部分を見直し、風通しのよい若者や女性が参加しやすい組織に少しずつ改編